

2026（令和8）年度神奈川県立保健福祉大学大学院
保健福祉学研究科保健福祉学専攻博士前期課程入学試験
出題意図及び解答（リハビリテーション領域 作業療法学専攻）

一義的な解答を示せるものは解答を公表し、一義的な解答が示せないものは、出題意図を公表しております。

問題（作-1）

（1）『出題意図』

急性期における脳卒中作業療法の実施において、早期離床の安全性については見解がわかれ、明確な基準は示されていない中で、急性期作業療法の実践における最新の知見の理解を確認し、これらの知見を活用して分析する能力および論理的に記述する力を問っています。

（2）『出題意図』

小児作業療法領域で学修するために、身につけているべき専門基礎知識を有しているか、小児領域における実践において、字を書くことに困難を抱える児童の評価の視点ならびに介入について、自身の考えを説明する力を問っています。

（3）『出題意図』

精神障害領域の支援において、近年普及し重要視されているリカバリーという概念を説明した上で、作業療法士がリカバリーを目指した支援を考えた際、用いる作業内容とその作業をどのように捉えるかを問っています。

（4）『出題意図』

近年、地域高齢者支援の現場において、身体的フレイルのみならず、精神的・社会的フレイルへの支援の重要性が広く指摘されています。本問では、作業療法士として地域リハビリテーションに関わる際に、これら多面的なフレイルに対しどのような戦略的支援が必要かについて、現状の課題を整理したうえで、自身の考えを論理的に述べる力を問っています。

(5) 《出題意図》

作業療法理論の1つである人間作業モデルに関わる構成概念について専門基礎知識を有しているか、様々な作業療法実践で、人間作業モデルの視点から役割へのアプローチについて、自身の考えを説明する力を問うています。

(6) 《出題意図》

治療と就労の両立支援は、医療・福祉・労働などの多領域にまたがるトピックであり、制度や実務の限界・課題への洞察力が求められます。実態調査の結果から、課題の抽出や実践的な解決策などについて分析する力を問うています。

問題（作-2）

《出題意図》

大学院では、英文文献の読解・活用能力が求められるため、情報の正確な読み取り、専門用語・重要語彙の正しい理解と日本語訳、論理的な英文要約・和訳能力の基礎力を評価することを意図しています。

《解答》

(1) C

(2) 認知症は加齢によって必ず起こるものではない。「加齢の必然的な結果ではない」でも可。

(3) smoking, physical inactivity, obesity ※他にも diabetes も生活習慣病に関連するため可。

(4) Dementia affects many older people, but about 40% of cases might be prevented or delayed by managing modifiable risk factors. (語数：23語)

または

Managing 12 modifiable risk factors could prevent or delay up to 40% of dementia cases in older adults. (23語)